



しおかぜ

9月30日(土)に大澤隆代表を講師にお迎えし、塩竈道院専有道場を会場に本山認定研修会を宮城教区として開催しました。

大澤代表は、昨年と今回で宮城県での研修は2回目となりました。午前中は、講義。午後は、技術研修として三浦伸也先生による絵本プロジェクトについての講演も行い、盛り沢山な研修となりました。

本山認定研修会を開催しました



本山認定研修で

塩竈道院専有道場での研修会終了後は、会場をホテルグランドパレス塩釜に移し懇親会を開催しました。

今回は、参加者が少ない研修会でしたが、その分中身の濃い研修となりました。参加いただいた皆さん、有り難うございました。

いよいよ60才以上限定体験教室が

10月14日(土)・21日(土)・27日(土)の3回、午前10時から12時までの2時間、「60才以上限定少林寺拳法体験教室」を開催します。この体験教室は、「少林寺拳法健康プログラム」を主体に体験いただく教室で、無理のない形で少林寺拳法を楽しんでいただきたいと考えております。

また、11月11日(土)より12月2(土)までの毎週土曜日連続の4日間、「女性のための護身術教室」も予定しております。

宗由貴 総裁メッセージ

人と人、国と国、平和的關係を大切に育てる。

2017年9月20日発信

ことし7月、4年に一度の世界大会と国際講習会がカリフォルニア州サンマテオで開催されました。40か国に普及する中、22か国からの大会出場者と講習会受講者が集



本山認定研修会終了式で

国や宗教や言語、そして習慣の違う人たち、合掌礼一つで仲間と認識し、自身を高めようと技を掛け合い、熱心に講義を聞く姿は、昨今の世界情勢とはまったく異次元の崇高にさえ感じる光のある光景でいました。

今後の予定

- ◎10月4日(水)杜都道院 達磨祭・5日(木)塩竈道院 達磨祭
- ◎10月8日(日) 9:00から 宮城武専・昇段試験(青葉体育館)
- ◎10月14日(土)・21日(土)・28日(土)10:00~12:00 60才以上限定少林寺拳法体験教室
- ◎10月15日(日) 9:00から 仙台市武道祭(青葉体育館)
- ◎10月27日(金)18:00から 塩竈教区昇級試験及び僧階取得勉強会(塩竈道院専有道場)

た。自分の満足のために力を身につけるのか人の役に立つために力を身につけるのか。この後者のために生まれた少林寺拳法は、組手主体で人と協力しながら修練を積み重ね、技の習得とともに人間関係も築き上げていきます。

人は、時間をかけ大切に育てたものや、苦勞して手に入れたものは大切にします。しかし、簡単に手に入れたものや、あつて当たり前前と思っているものは、意外に粗末に扱ったりするのではないのでしょうか。人と人の関係も、国と国の関係も、そう思えてなりません。

ことしは日中国交正常化45周年の年です。1950年代から国交回復のために幾

絵本の伸ちゃん



多の先輩方が努力に努力を重ね、72年当時の田中角栄総理と大平正芳外務大臣が北京を訪問し、毛沢東主席・周恩来総理と会談し、難産のような外交努力によってやっと成しえた東アジアの夜明けでした。

しかし、昨今では戦争経験者が少なくなり、語り継がれない歴史の教訓と同じように、国交正常化に尽くした先人たちの努力は語られることはなくなり、身近に起こる政治外交上の問題だけがクローズアップされ、「国益」という言葉だけが飛び交っているように思います。

政治外交を司る方々のすべきことと、私たち民間のすべきことは同じではありません。政治外交上うまくいかない時代を民間が支え、人間関係を紡いできた歴史もあります。

少林寺拳法創始者・宗道臣(開祖)は、「日中の友好なくしてアジアの平和はありません、アジアの平和なくして世界の平和はありません」という信念を持って、その意志を継ぐ次世代を育てようと思いました。

しかし最近になって、「開祖はそういうたかもいけないけれど、もはや中国は経済大国であり、そして軍事大国になろうとしている。変わってしまったのだから、もう日中友好なんていつて時代じゃない」という人がいます。私はそうは思いません。「国益」ばかりでなく、平和を願う人々との交流、

2017年9月15日

宮城県(仙台市)地域社会少林寺拳法指導者研修会



特に民間交流は絶対に必要だと思うからです。だからこそ、昨年は高校生60名を、ことしは大学生60名を連れて中国を訪問しました。次世代に伝えたいからです。

大変な努力をしてやっと手に入れた平和的關係を、粗末に扱ってはいけない。いつまでも大切に育てていかなければなりません。

争いの世紀といわれた20世紀が終わり、核廃絶を目指す動き出したはずの21世紀も、また核の抑止力に頼る自国ファーストの応酬が始まっています。

日本の将来をイメージし、人と人の關係を紡ぐ方法や努力を伝えるという大切な教育を怠った、その結果ではないでしょうか。